



ときいい仕事ができる」「一人の人間でできる  
ことはたがが知っている。一十一は「ではない」  
と語っていました。大いに参考になる言葉です。

## ライブから里山通信へ

ライウから里山通貨入

先田N.H.K.の番組で「トロ」などおなじみのスタジオジブリのアニメプロデューサー鈴木敏夫が「人を楽しませるためにはまず自分が楽しめなければならない」「仕事をみんなで楽しめる祭りにする」「仕事を忘れたときいい仕事ができる」「一人の人間にできることはたかが知れている。一十一は「ではない」と語っていました。大いに参考になる言葉です。

ある者は昔好きだったボーカル歌手は身近に接してマネージャー気取りに世話を焼き、ある者は昔感動した映画を弁士つきというスタイルで見ることができたし、ある者はいつも感動していく講演者をこの地元に呼んで講演会を開催という形で表現し、又ある者はボブ・マーリイの没後一〇年の記念イベントを打つことが出来ました。そしてこういうイベントを通してメンバーの結束は深まり、いろいろな人間との交流も生まれるという収穫もありました。

います。ライブ活動ではやってみたい  
事が中心となってことを進めました。  
それが興行的に成功したかどうか  
は別にして、義務感でやった意識を持つ  
たメンバーはいなかつたと思います。  
つづきは皆様ご参考に次回も

ライブ活動を通して私たちが常に意識していくのは、「まず自分たちが楽しめるものを」ということでした。自分たちが楽しめないものをどうして他の人が楽しめるのか、という思いがありました。何か事を起こすには一人本気になつてやる人間が必要です。そうするとたいていのことは進みます。このライブ活動に限らず、他のさまざまな活動においてそれを継続していく上で大切なことは、まず自分達が楽しむことだと思います。ある時から義務感でやるようになつてしまふと本当につまらないものになってしま

これがここに至り、その大変な編集作業を解決する一つの要因が出てきたのです。ひとつは北通信用員が良くできたパソコンソフトを見つけてきたこと。もうひとつはこの面倒な編集作業を喜んで引き受けてくれる人間がいたことです。紙面を作り上げるということに喜びを見出してくれる佐久間編集長は、出来上がったときには本当にうれしそうな顔をしています。今では、この仏のような編集長にメンバーはべつたわりと甘えきり、注文をつけるわ原稿はギリギリまでもってこないわという状況です。しかし、こういうとんでもない連中を相手にやんわりと受けとめ、すべてを收めきつてしまふという離業を毎回駆使してくれています。（メンバーもこの人柄に弱く、なんだかんだ言いながら最後にはきちんとつまみを合わせてきます）彼の存在なくしてはこの通信は成り立ちません。

この通信の発行には二つのことがヒントになりました。ひとつは雑誌「チルチンびと」に掲載された「里山通信」の写真。(こちあらやま通信) 里山通信という言葉そのものを使わせてもらいました。もうひとつはNHKのラジオ放送の「昼の憩い」です。(あらはラジオ第一放送の) お昼のニュースの後に、例の懐かしい馬子唄(こまこゑうた)が流れます。そこでは農林水産通信員の名で寄せられる、どうでもいいような地方の出来事を毎日放送しているのですが、なぜか日本人の心の奥の方にさる何かをやさしく刺激してくるのです。このような感じで地域の人たちに何かを伝えられないかと思いました。大して重要ではない、それでいてどこか懐かしく思えるようなもの、加茂地区から出て行った人にも地元には今こういう地域紙があるんだよと言えるようなそんなものが作れたらと思いました。

役員と有志の方々(前列中央が松本会長)

# いよいよ加茂バス走る?

**コミュニティーバス  
試験運行へ**

**生活の足は  
どうなる?**

■これまでの経緯

毎回紙面を借りて書いて

きた加茂地区の生活交通

について、新年度に当たり、

これまでの経緯を振り返っ

たみたい。

思い返せば平成15年に

「市民会議」の名の下に市民

委員が招集された。市原市

全体では約100名の参加

があり、加茂地区からは1

7名。市の総合計画の見直

しに際し、市民の意見を盛

り込むことを目的にしてい

た。

約1年をかけ、加茂地区

の魅力と課題を洗い出し、

平成16年7月にタウンミー

テイリングを開催。地域住民

の意見を踏まえて同年10

月に提言書を市長に提出。

その後発表された市原市総

合計画には

1. 自然を生かした地域の活性化。

2. 生活交通の確保

迎にあたる家族のことを考へれば、「交通問題は提言だけで終わらせておけない」と考へた市民会議の委員たちは提言書を提出した直後の10月中に、地区内町会長の皆さんに対する説明会を開催。11月には市役所担当者を招いての勉強会。各町会から実務委員を選出していただき、年末には地区住民に対するアンケート調査を実施。慌しさの中で平成16年は暮れていった。分析し、コミュニケーションを現に向けて継続して平成17年。回収されたアンケートを分析し、コニクニティーバス実現に向けて継続

的な会議開催を決定。原案作成のためのアドバイスを受け、年も改めた今2月には作業部会としての原案作成。実務部会全体会議に原案を提出。一歩ずつ実現に向けての歩みが続いている。

■これからのこと

加茂地区というより市原市の公共交通の背骨

である小湊鉄道との協調は最優先で考えるべき

だと思う。3月には小湊鉄道の担当の方に挨拶

を済ませ前向きな言葉も頂いた。

鉄道を補完する様なバスの運行を盛り込み、

既存の路線バスも含めた運行計画を練り上げて

いく作業が続く予想される。

バスを走らせて誰も乗らないのではすぐに

「廃止」となってしまうだろう。通学距離の長い小学生や家族の送迎に頼つている高校生など、潜在的な需要はあると想像できる。ただし

送迎からバスへとどれくらいシフトしてくれる

のか?このあたりが採算ラインに乗るかどうか

今年度は町会長さんを始め地域住民の皆さん

に理解を深める機会を設けながらコミュニティ

バスの「試験運行」実施に向けて具体的な動きに

結び付けて行きたいものだ。

今年度は町会長として、消防団員をまとめて地

域防災活動に励んでいきたいと決意しております。かけがえのない市民の命

や尊厳なこの郷土を火災等の災害から守るため、地

本年度は分団長として、消防団員をまとめて地

域防災活動に励んでいきたいと決意しております。かけがえのない市民の命

や尊厳なこの郷土を火災等の災害から守るため、地

本年度は分団長として、消防団員をまとめて地

域防災活動に少しでも興味がある方は、私たち

を理解していただき、私たちと一緒に消防団活動

をしていただける仲間を募集中でありますので、

消防団活動に少しでも興味がある方は、私たち

を理解していただき、私たちと一緒に消防団活動

をしていただける仲間を募集中でありますので、

消防団員に気軽に声をかけてください。

消防団員に気軽に声をかけてください。</

